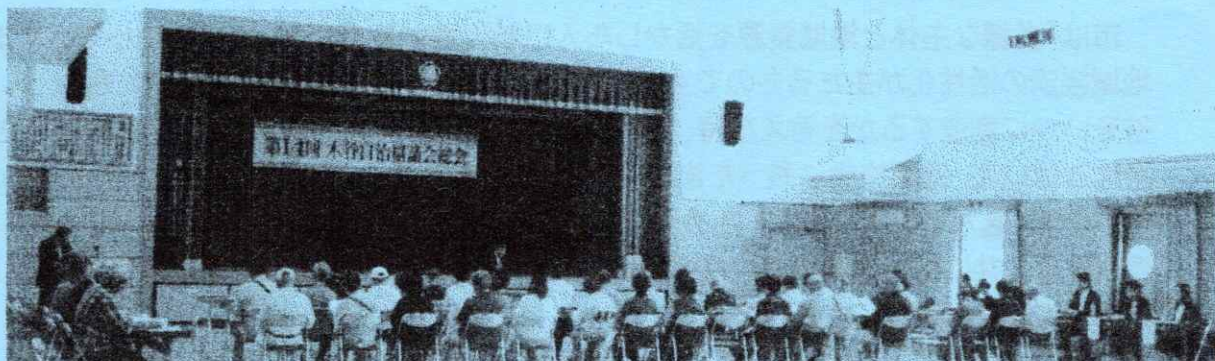


豊潤の里

だより

木谷自治協議会総会を開催



第14回木谷自治協議会総会が、自治協役員や区長など41名が出席(ほかに委任状18)して5月16日に木谷小学校体育館で開催されました。会長の挨拶と来賓代表の挨拶と来賓紹介のあと、令和7年度の活動報告や会計報告など9議案が審議され、いずれも賛成多数で承認されました。

来賓の皆さま

宮川 誠子様	東広島市議会議員	中村 光利様	市役所安芸津支所長
岩崎 和仁様	東広島市議会議員	邑岡 徹哉様	市社協安芸津支所長
上岡 裕明様	東広島市議会議員	加藤 燈恵様	木谷小学校校長

《新年度を迎えて》

魅力ある・つながり合える「住み続けられるまちづくり」をめざして

木谷自治協議会 会長 山住 光治

「住み続けられるまちづくり」に向けて様々な取組みを行ってきました。今年度も、昨年度会長に就任した際に提言しました取組みを継続して進めていき、次に掲げる四つの点について今年度、特に力を入れて取組んでいきたいと思っております。

1. Well-Being を実感できる地域共生社会の実現

地域の皆様が「支え手」「受け手」という関係を超えて、互いに学び合い、支え合い、感謝し合える「シアエル関係」づくりが求められます。5人に1人が77歳以上の高齢者という、

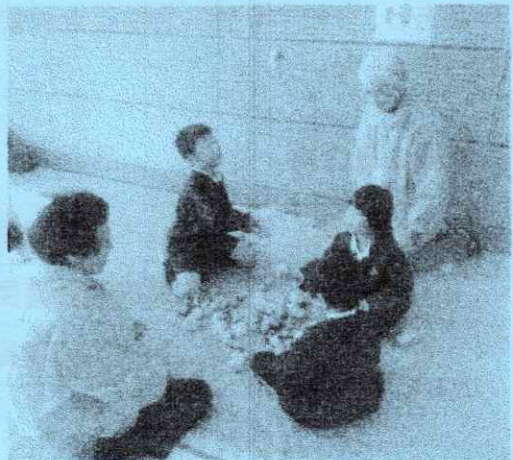
高齢化が進む木谷地域の皆様の誰もが身体的・精神的・社会的に満たされた「健幸」な状態(Well-Being)になる地域共生社会の実現に向けての取組みを進めて参りましょう。その際、「福寿の会」や「防災訓練」等で地域の皆様と直接関わって頂いている区長の皆様のご協力は欠かせません。区長の皆様方を中心として地域の皆様が互いに声を掛け助け合える関係づくりを進めて参りましょう。

2. 地域資源を活かした地域の活性化

市は「多様な主体と地域資源を活かした人口減少地域総合対策」を打ち出しています。地域経済の活性化が主たるものですが、私たちは魅力を感じ、多くの方に来てもらえる木谷をいかに創造するかを考えた時、旧し尿処理上跡地の有効活用が挙げられます。ただ、跡地とはいえ、処理施設は残ったままであり、市有地で、すぐさまには活用できないのが現状です。魅力ある木谷とするために、まずはどのように活用することが効果的なのかを模索すると共に市への働きかけをすることが求められています。私たち自治協として、取組みを進めていきたいと思ひます。

3. 子ども達の健やかな成長のための環境づくり

「子は地域の宝」です。子ども達が健やかに育ち、将来、地域を支える存在となることを支援していきたいと思ひます。「地域と共にある学校づくり、学校を核とした地域づくり」これは「木谷地域まちづくり実行委員会」のスローガンです。自治協として「地域運動会」や「木谷フェスティバル」、「もの作りふれあい集会」や「読み聞かせ」「ホボロ島学習」などなど、子ども達の成長を支える多くの活動に取り組んでいます。子ども達が健やかに成長していけるような環境づくりを今年度も行っていきたいと計画しております。



4. 処分場建設反対に向けての活動

今年度の総会でも、「民間企業による産業廃棄物処分場建設阻止の行動計画」をご承認いただきました。去る5月15日の中国新聞に「三原産廃場 住民が逆転敗訴」の記事がありました。ご覧になられた方も多いいと思ひます。一度産廃場ができてしまうと、その後何が起こっても「どうしようもない」ことが語られていると思ひながら読みました。私たちは、この美しく豊かな自然環境を次の世代(子や孫)が引き継ぐため、町内外の他団体とも力を合わせつつ地域あげて建設阻止に取り組んでいきましょう。

このように、私たちが取組まなければならない課題解決に向けて、また、自治協の様々な活動が実りある活動となりますように、地域の皆様、幹事や役員、区長の皆様方のご協力を頂きますようお願いいたします。

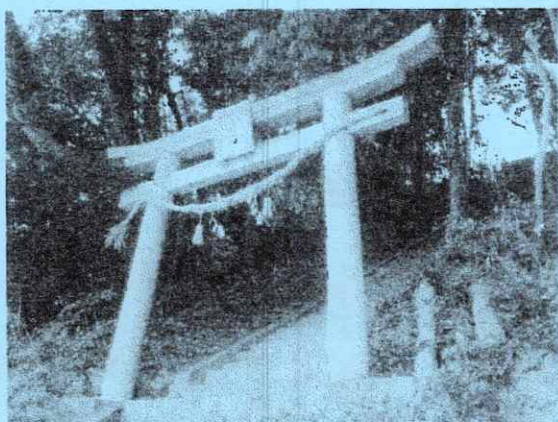
赤崎・三種神社の石鳥居を再新建立

赤崎地区では、令和6年(2024)6月の大雨により、椎の木が倒れたために三種神社の鳥居が壊れ、その再建が大きな課題になっていました。そこで10月20日の重松神社の例祭のあと、三種神社の総代が集まって対応策を検討。11月10日、赤崎自治会役員の中から5名と三種神社の総代の中から6名の合計11名からなる「三種神社特別委員会」を結成して善後策を検討。鳥居を再建する方向で進めることを決定。応急措置として11月23日に、倒れた木と壊れた鳥居を除去。鳥居の再建に必要な資金を300万円と見積もりました。

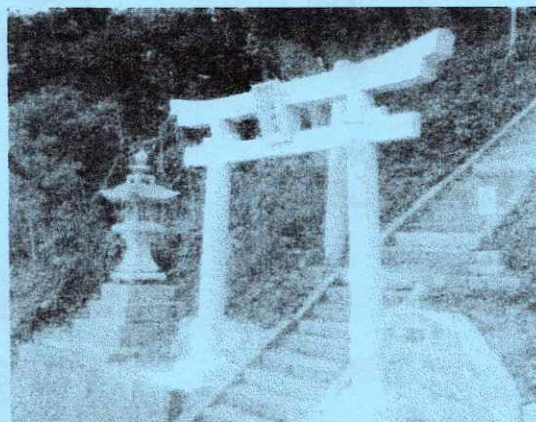
令和7年(2025)3月20日、赤崎自治会+三種神社総代会+三種神社特別委員会の合計21名が、8月から鳥居再建の寄付集めの趣旨説明に回ることを決めました。募金活動の結果、令和8年3月までに360万円余りの寄付が集まりました。

令和8年(2026)2月15日、石鳥居を別の場所に新設し、一時的に移動していた石灯籠を元の場所に戻すことを決定。翌日から工事に入り4月23日完成、5月3日の例祭に併せて三種神社の大成景俊宮司により「石鳥居再新建立奉告祭」(竣工祭)が執り行われました。

三種神社特別委員会の上岡昇太会長は、「令和6年初めに行われた木谷小学校の創立150周年記念事業のための寄付から1年余りしか経っていなかったのに、難しい募金活動となりました。しかし、赤崎地区の住民の皆さんのご協力はもちろん、赤崎地区の出身者の皆さんからも過分なご寄付をいただき、感謝に堪えません」と話していました。



昭和61年に再建された二代目の鳥居
(令和6年6月の豪雨倒木により倒壊)



令和8年4月に再建された三代目の鳥居
(新鳥居の後ろに旧鳥居の柱が見える)

三種神社とは

ことさかおのみこと いざなぎのみこと はやたまおのみこと

●ご祭神 事解男命、伊弉諾尊、速玉男命、他4柱

●由 緒 勧請年月日不詳。創建は天正年間(1573~1592)とされる。この三種神社は紀州(和歌山県)の熊野三社から勧請したため三所権現といってきたと記録されている。そのため地元では現在でも「権現さん」と呼ばれているが、明治になって社名を三種神社と改めた。

●例 祭 毎年5月3日

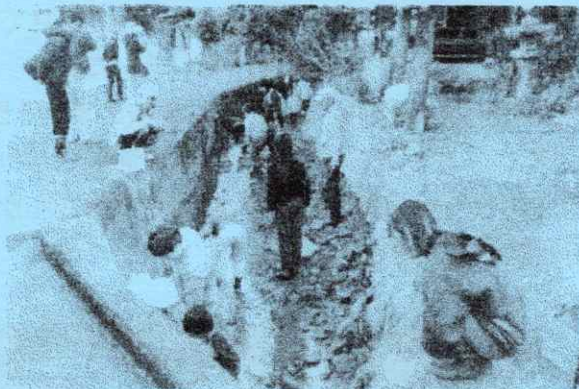
郷地区の運動会(4/26)



今年で47回目となる郷地区運動会が、同地区出身者の家族を含む90名が参加して行われました。天候に影響されない木谷小体育館での開催で、3チームで競いながらも親睦を深めました。運動会終了後は空くじなしの「お楽しみくじ引き」で、賞品番号が発表されるたびに、歓声が館内に響き渡りました。その後会場を郷会館に移し、運営関係者の労をねぎらいました。

次世代部会

部会活動紹介



4/2 春の小川で「シロウオとあそぼう」

シロウオの観察会に子どもと保護者など35名が参加しました。はじめに主催団体代表の古本敦子さんから、シロウオの外見の特徴や生態、オスとメスの見分け方を学び、まだ流れの冷たい小川に入ってシロウオを探しました。

<木谷はっけん野あそび会>

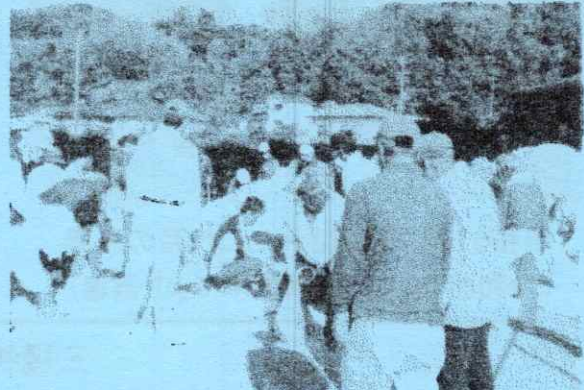
教育文化部会



5/7 プランターでの花育てに一役

木谷小の子どもたちが花を育てるプランターの土入れ替えに、民生委員を中心に7名が協力。どんな花が咲くか楽しみです。

防災安全部会



5/17 豪雨などに備えて土のうを備蓄

毎年心配される豪雨災害に備え、消防団の15名を含む住民72名で700袋の土のうを作り所定の場所に保管しました。

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口	男	女
令和8年(2026)4月末現在	653	1344	649	695
令和7年(2025)4月末との比較	-6	-31	-22	-9